

学術と学術体制のあり方を問う 総合シンポジウム

—学術研究の軍事利用を拒否する—
平和・自由・自主・民主的であってこそ
学術の発展がある

講演 広渡清吾さん（前日本学術会議会長・東京大学名誉教授）
「科学者コミュニティと軍事研究～科学者に今できること、
やってはならないことは何か～」

対談 益川敏英さん × 香山リカさん
（JSA 代表幹事・ノーベル物理学賞受賞者）（精神科医・立教大学教授）

リレートーク
全大協・日本私大教連・各大学・軍学共同反対連絡会
九条科学者の会・平民研連・各地から発言

総括発言 井原 聰さん（JSA 事務局長・東北大学名誉教授）

開催日：2017年6月25日（日）14:00～17:00

場所：明治大学グローバルフロント 1F

グローバルホール（東京・御茶ノ水）

地図は裏面にあります

主催：日本科学者会議（略称：JSA）
後援：明治大学教職員組合
安保法に反対するオール明治の会
協賛：全国大学高専教職員組合・日本私立大学教職員組合連合
軍学共同反対連絡会・九条科学者の会
平和と民主主義のための研究団体連絡会議

* 資料代：1,000円

* 日本科学者会議 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15
<http://www.jsa.gr.jp/> Tel: 03-3812-1472 Fax: 03-3813-2363

企画趣旨

(1) 社会と経済の軍事化の流れに抗するとともに、私たちは科学の平和的、民主的発展のために、軍事研究に反対します。

このシンポジウムは、防衛省安全保障技術推進制度のみならず、米軍資金の問題、科学技術・イノベーション総合戦略（安全保障・軍事を含む）における大学の位置づけなど、矢継ぎ早に展開する政府の学術および科学政策を、学術と学術体制の軍事化の問題と捉え、平和構築に寄与する教育・科学・技術の発展とそこにおける科学者の使命を追求することの重要性が一層増していることを強調し、確認するものです。同時に、国民の安全保障問題での「不安」に応えうる軍事力によらない平和維持、平和外交の具体的展望を模索すること、また、大学だけでなく、民間企業や国公研究機関の現状とそこででの研究者のおかれた深刻かつ困難な実態も重視する必要があると考えています。

(2) 防衛装備庁の「安全保障技術研究推進制度」なる軍事研究に応募しない、応募させない運動を引き続き強めます。

科学者会議は、防衛省委託研究に応募しない、応募させない運動を重視し、4～6月を取組強化の月間として位置づけ、各大学、各支部で計画を立てて取り組んできました。また、憲法9条を守る運動や軍学共同に反対する多方面の諸団体とその連絡会、科学者運動の諸団体、そして大学で学問の自由、大学の自治、教職員の権利擁護などの活動を展開されている大学の教職員組合、さらに各地で地域の諸団体と共同して大学での軍事研究を許さない運動を展開している方々の協力のもと、このシンポジウムは開催されます。こうした協力・共同の諸団体、広範な国民とともに、わが国の学術諸機関と科学者が軍事研究を断じて行わないという大運動の大きな節目になればと願っています。

(3) 「安保法制」のもとに軍事化、憲法9条死文化を意図する安倍政権の暴走に抗して、学術と教育と大学を国民の手に、自律的な科学者コミュニティの手に取り戻すため、広範な国民各層との共同の取り組みを強めます。

科学と科学者もまた、戦争のできる国へ暴走する安倍政治への分厚い抵抗の壁となりたいものです。軍事国家、監視国家をめざす安倍政権の文字通りの暴走、日米軍事同盟強化の企図を阻止する国民的な運動の一翼を担う科学者運動の力が試されるときでもあります。この総合シンポジウムを大きく成功させ、平和憲法にふさわしい、人類と世界に寄与する平和国家としての日本の学術と学術体制を、豊かで誇るべき遺産を継承しつつ、現在の情勢にふさわしいものとして構築する取り組みを、科学者と市民の連合した力のもとで進めていきましょう。

リレートーク発言者(敬称略)

永山茂樹（科学者九条の会事務局長）
志田陽子（科学者九条の会共同代表）
多羅尾光徳（軍学共同反対連絡会）
浜田盛久（軍学共同反対連絡会）
横地明美（軍学共同反対連絡会）
杉原浩司（軍学共同反対連絡会）
斎藤隆仁（JSA 徳島支部事務局長）
高山進（JSA 三重支部代表幹事）
全大教、日本私大教連、明治大学教職員組合、安保法に反対するオール明治の会、平民研連 からの発言も予定されています。

